

## パキスタン・ハイバルパフトゥーンハー州の洪水復興 DB

### <概略>

2012年11月

**目的:** 2010年7-8月に未曾有の全国規模洪水が襲ったパキスタン・ハイバルパフトゥーンハー州ペシャール県において、村落レベル・家計レベルの情報を集め、開発途上国における自然災害のミクロ経済学的インパクトと復興過程に関する事例研究のためのDBを作成する。

**共同研究者:** 黒崎卓（一橋大学経済研究所、プロジェクトリーダー）、Humayun Khan, Mir Kalan Shah, and Muhammad Tahir (Institute of Development Studies, Khyber Pakhtunkhwa Agricultural University, Peshawar, Pakistan)。

**対象:** パキスタン・ハイバルパフトゥーンハー州ペシャール県。

**調査時期:** 第一次パイロット調査 2010年12月から2011年2月、第二次パイロット調査 2011年12月から2012年1月。

**サンプル規模:** ペシャール県から有意抽出された10村および各村から10世帯抽出された標本家計合計100家計。調査村は、人口規模、民族的特徴、土地制度については似通っているが、灌漑水準、市場向け活動の度合、洪水被害に関しては大きな分散が得られるように選定した。調査世帯は、無作為抽出を目指したが、洪水から間もない混乱時期ということもあり、相対的に裕福で外部の調査を受け入れやすかった家計が結果として多くなった。

**今後の調査・作業予定:** より代表性を持つサンプリングに基づく本調査。1990年代に同地域で実施したパネル調査との結合。

#### これまでの主要なファインディング:

- ・洪水被害は項目ごとに異なった村間・村内分散を伴っており、家計間の相関は予想より低い（村内保険の可能性が集計的ショックである洪水においても存在する）。
- ・村間での支援物資配分は被害の大きな村に集中していた。村内配分は、家屋被害の大きかった家計には優先されていたが、作物・農地・家畜の被害への配慮は弱い。
- ・被害3~4か月後の回復度合は、被害の大きかった家計で遅れ、洪水前の資産とりわけ人的資産が豊富だった家計で順調であった。支援物資配分と回復度合の間の相関は検出されなかったが、これは、支援が回復を推進する効果と、そもそも回復に困難を抱えているとみられる家計に支援が配分された効果とが打ち消し合ったとみられる。
- ・さらに一年たった後の回復度合を見ると、洪水前に相対的に豊かだった家計におい

て回復速度の減退が顕著にみられ、とりわけ家屋数を多く有した家計の回復の遅れが目立つようになった。